

令和7年10月15日

令和7年度病虫害発生予報第7号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発 生	程 度
		現 況	予 想
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	少 やや少	やや少 並
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類、オオタバコガ	やや少 やや少 やや少	並 並 並
いちご (本圃)	うどんこ病 炭疽病 アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 多 並 やや少 少	並 多 やや多 並 やや少
ブロッコリー	コナガ ヨトウムシ類 オオタバコガ	少 やや少 やや少	やや少 並 並
かんきつ	かいよう病 緑かび病、青かび病 ミカンハダニ	並 やや少 やや多	並 やや少 やや多
果樹共通	カメムシ類	並	並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

大 豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(6筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率4.2%、株当たり虫数0.2頭、白変葉発生圃場率39.7%)。

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率2.0%(0.0%)、株当たり虫数0.0頭(0.0頭)であった。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年より少なく推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

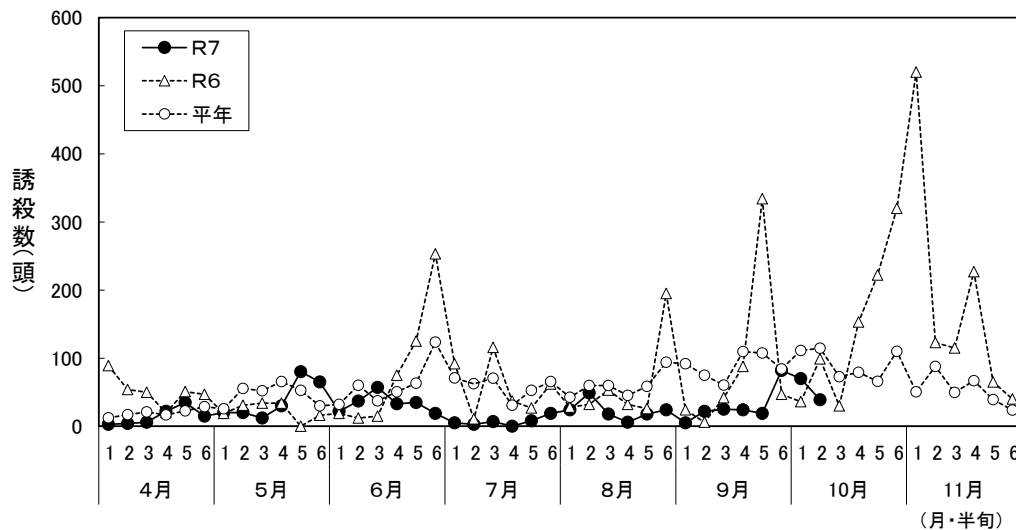


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(6筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率1.0%、株当たり虫数0.1頭、発生圃場率17.5%)。

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率24.0%(11.5%)、株当たり虫数0.4頭(0.2頭)であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は主に着莢部に生息するので、薬剤が着莢部によくかかるよう防除を行う。

イ 発生状況に注意し、9月に防除を実施した圃場でも本虫の発生が多い圃場では追加防除を行う。

ウ 収穫時期が近いので、薬剤の散布時期に注意し、使用基準を遵守する。

ばれいしょ

1. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(16筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.2%、発生圃場率3.8%)。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

2. ジャガイモガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(16筆)の結果、発生を認めなかった(食害株率0.5%、発生圃場率13.2%)。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)、オオタバコガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(16筆)の結果、チョウ目害虫による食害株率は1.1%(5.4%)であった。株当たり寄生虫数は、ハスモンヨトウが0.01頭(0.02頭)、シロイチモジヨトウ、オオタバコガの寄生は認めなかった(0.01頭、0.02頭)。

イ フェロモントラップ誘殺数は、ハスモンヨトウ（諫早市）では10月以降、平年よりやや少なくて推移している（図）。シロイチモジヨトウ（諫早市）は、10月1半旬以降増加し、平年よりやや多く推移している（図）。オオタバコガ（諫早市）は10月1半旬以降平年よりやや少なくて推移しているが（図）、雲仙市のトラップでは10月1半旬に大きなピークがあった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

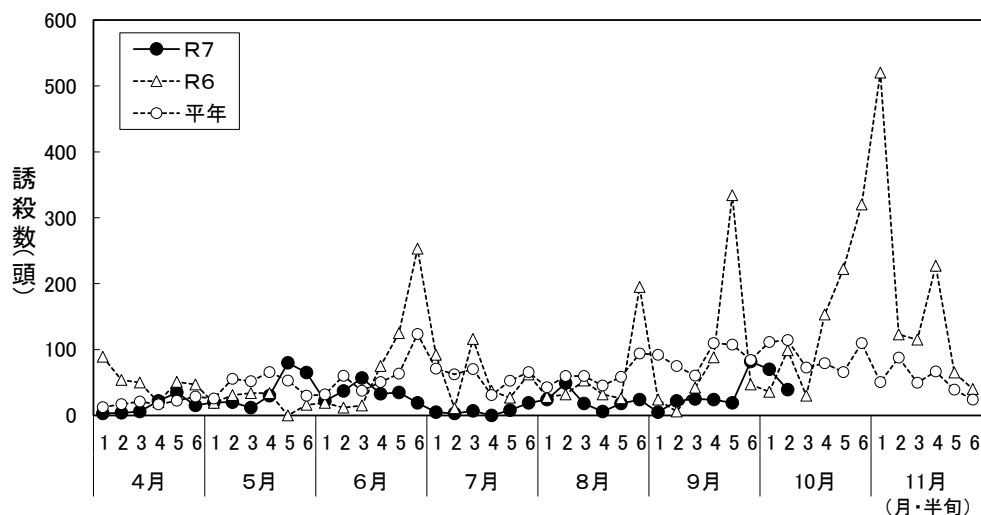


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況 (諫早市小船越町)

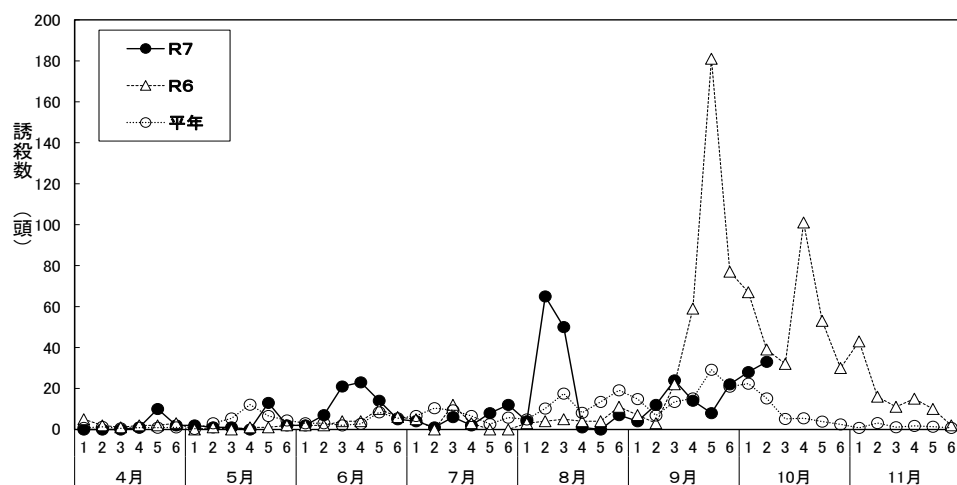


図 シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況 (諫早市小船越町)

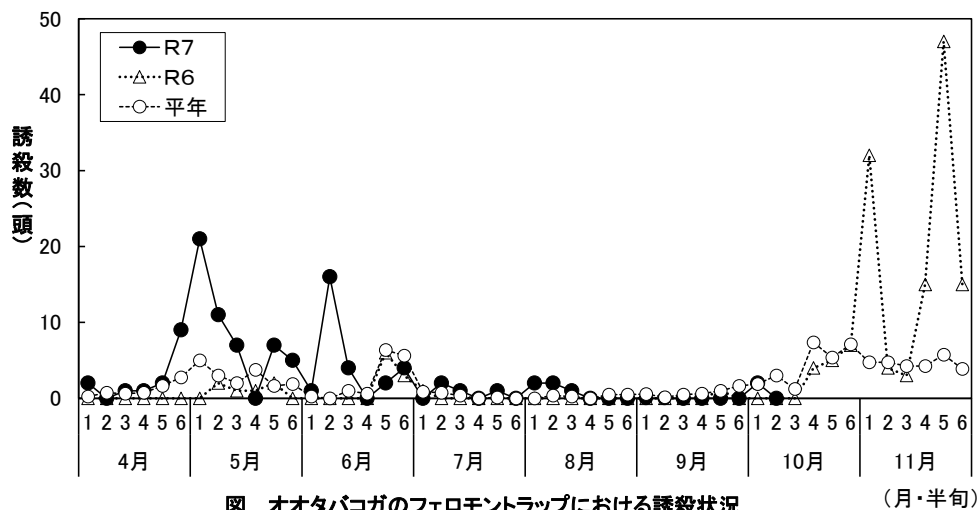


図 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況 (諫早市小船越町)

- ア 幼虫の齢が進むと薬剤の効果が低下するので早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準P62～63「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避ける。

いちご

1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
10月前期の巡回調査（26筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. 炭疽病

- (1) 予報内容：発生程度 多
- (2) 予報の根拠
ア 10月前期の巡回調査（26筆）の結果、発病株率は0.1%（0.1%）、発生圃場率は46.2%（9.5%）であった。
イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本病の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
発病及び枯死した株は、見つけ次第速やかに圃場外に持ち出し、圃場内及び周辺に放置せず、適切に処分する。

3. アブラムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
ア 10月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は1.2%（1.1%）、発生圃場率は11.5%（11.7%）であった。
イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準P182～183の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避ける。
イ ハダニ類の天敵を導入する圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を使用する。

4. ハダニ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
ア 10月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は0.7%（3.0%）、発生圃場率は11.5%（21.6%）であった。
イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

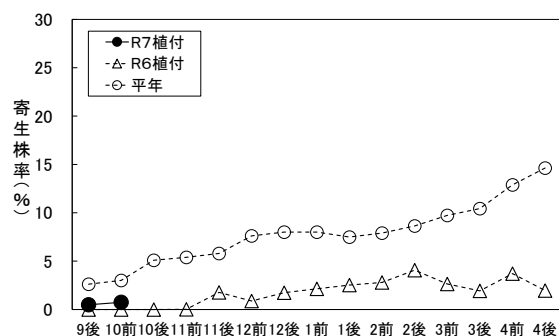


図 いちご ハダニ類 寄生株率

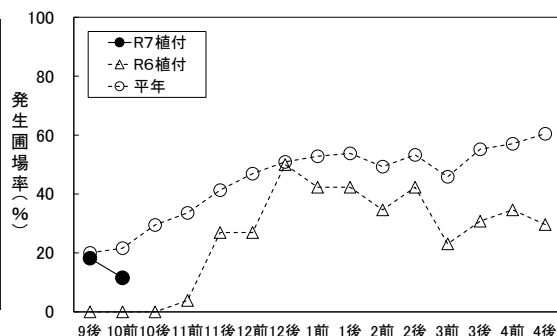


図 いちご ハダニ類 発生圃場率

- (3) 防除上注意すべき事項
ア ビニル被覆後はハダニが増加しやすいので、被覆前までの防除を徹底する。

- イ 薬剤散布前には古葉の整理を行い、薬剤が葉裏までかかるようにする。また、摘葉した古葉は、速やかに圃場外に持ち出し適切に処分する。
- ウ 天敵を導入する圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を用いて防除を行い、ハダニの密度を極力低減した上で放飼する。
- エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準P182～183「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

5. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月前期の巡回調査（26筆）の結果、食害株率は0.2%（5.8%）、発生圃場率は23.1%（63.2%）であった。
- イ フェロモントラップ誘殺数（諫早市）は、10月以降平年よりやや少なく推移している（ばれいしょの項参照）。
- ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

ブロッコリー

1. コナガ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月前期の巡回調査（11筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率3.2%、株当たり虫数0.0頭、発生圃場率30.6%）。
- イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
- 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準P197～198の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避ける。なお、ジアミド系薬剤（IRAC：28）の効果が低い個体群が県内で確認されているため、防除効果の低下が疑われる場合は別系統の薬剤を散布する。

2. ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）

- (1) 予報の内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
- ア 10月前期の巡回調査（11筆）の結果、ハスモンヨトウは寄生株率が1.8%（2.3%）、株当たり虫数は0.1頭（0.3頭）、発生圃場率は27.3%（32.3%）であった。シロイチモジヨトウは寄生株率が0.7%（2.0%）、株当たり虫数は0.01頭（0.08頭）、発生圃場率は9.1%（23.6%）であった。
- イ フェロモントラップ誘殺数（諫早市）は、ハスモンヨトウでは10月1半月以降平年よりやや少なく推移している。シロイチモジヨトウは10月1半月以降増加しており、平年より多く推移している（ばれいしょの項参照）。
- ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア 幼虫の齢が進むと薬剤の効果が低下するので早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準P197～198「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避ける。
- ウ 今後、定植する作型では、薬剤のセル苗処理を行う。

3. オオタバコガ

- (1) 予報の内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.7%、株当たり虫数0.0頭)。

イ フェロモントラップの誘殺数(諫早市)は、10月1半旬以降平年よりやや少なく推移している(ばれいしょの項参照)。雲仙市のトラップでは10月1半旬に大きなピークがあった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫は花蕾部に食入すると薬剤がかかりにくくなり防除効果が低下するので早期発見早期防除に努める。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和7年長崎県病害虫防除基準P197～198「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤の連用を避ける。

ウ 今後、定植する作型では、薬剤のセル苗処理を行う。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は1.1%(0.5%)、発生圃場率は19.4%(15.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。

2. 緑かび病、青かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率3.6%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 胞子が形成された摘果果実や樹上の発病果は見つけ次第、取り除き処分する。

イ 雨の日や雨の翌日に果実に水滴が残っているときは収穫を行わない。また、果実に傷を付けないように収穫、運搬、選果を丁寧に行う。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

10月前期の巡回調査(36筆)の結果、発生葉率は6.1%(1.7%)、発生圃場率は36.1%(19.5%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア これから着色が進む品種については、加害により着色不良を起こすおそれがあるので、発生が確認される場合は防除を検討する。

イ 薬剤散布の際は、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和7年長崎県病害虫防除基準P318～320およびP324～326の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤は連用しない。

エ 収穫期に近い園では、薬剤の選択にあたっては、収穫前日数に注意する。

オ 周囲に収穫期に入っている園がある場合は、薬剤の飛散に十分注意する。

1. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア かんきつの10月前期の巡回調査(36筆)の結果、発生圃場率は5.6%(3.1%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市、西海市、南島原市)による直近の誘殺数は平年並である(図)。

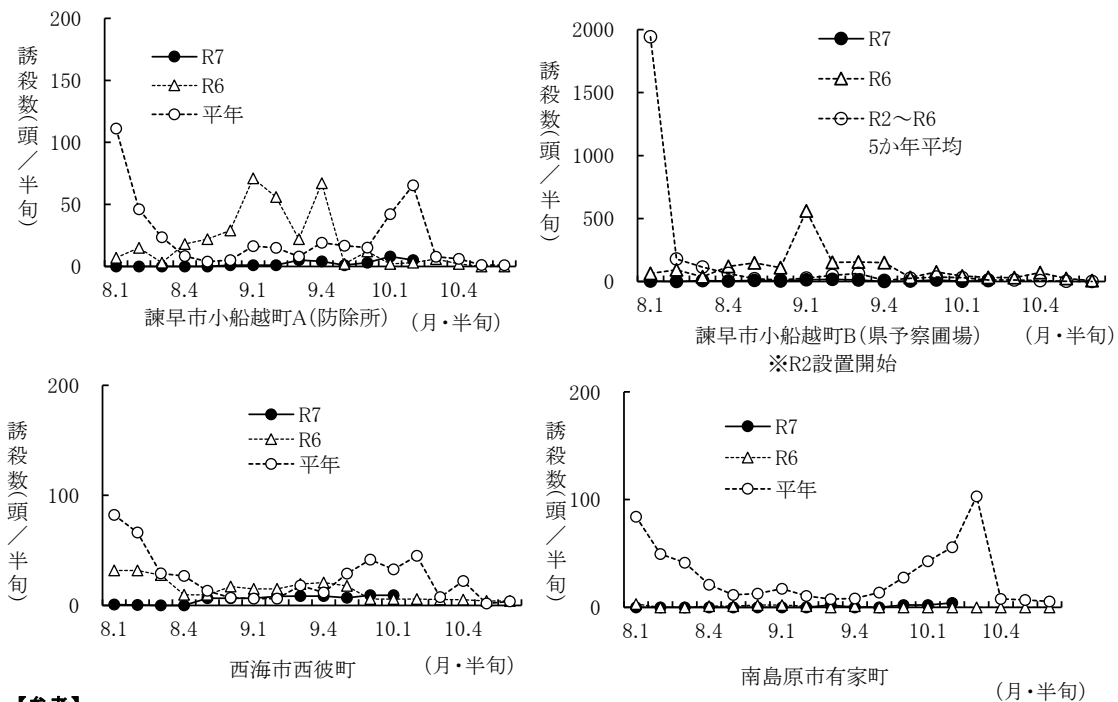
(3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来量や飛来時期は園地により異なる場合があります、集中的に加害されるおそれもあるので、果樹園の見回りを徹底するとともに予め防除薬剤を準備し、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。とくに山林に近い園地や毎年発生が認められる園地では注意する。

イ 果樹カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来して果実を加害する傾向があるため、薬剤散布はなるべく夕方に行う。また、薬剤散布にあたっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

ウ 収穫期に近い園では、薬剤の選択にあたっては、収穫前日数に注意する。

エ 周囲に収穫期に入っている園がある場合は、薬剤の飛散に十分注意する。



【参考】

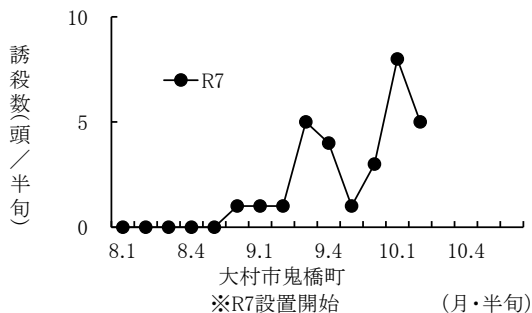


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(フェロモントラップ)

【参考】

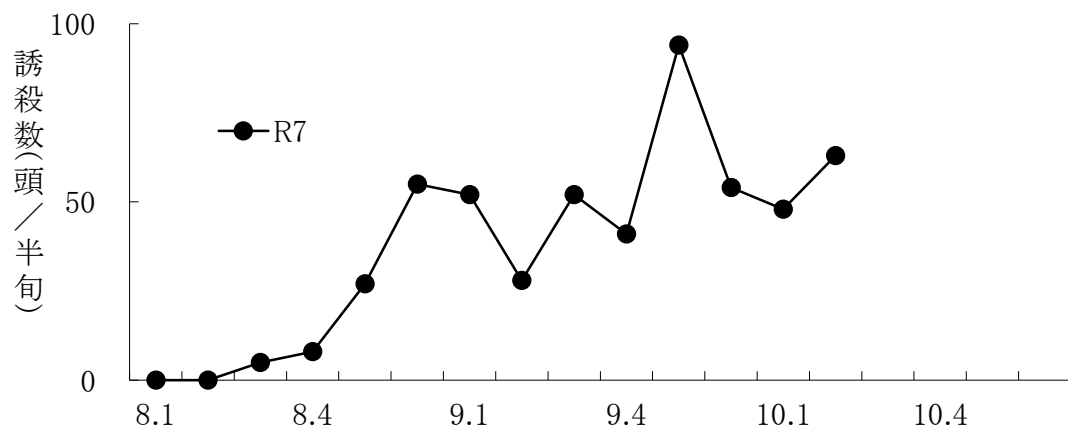


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況
(スマート害虫モニタリングシステム: 諫早市) (月・半旬)

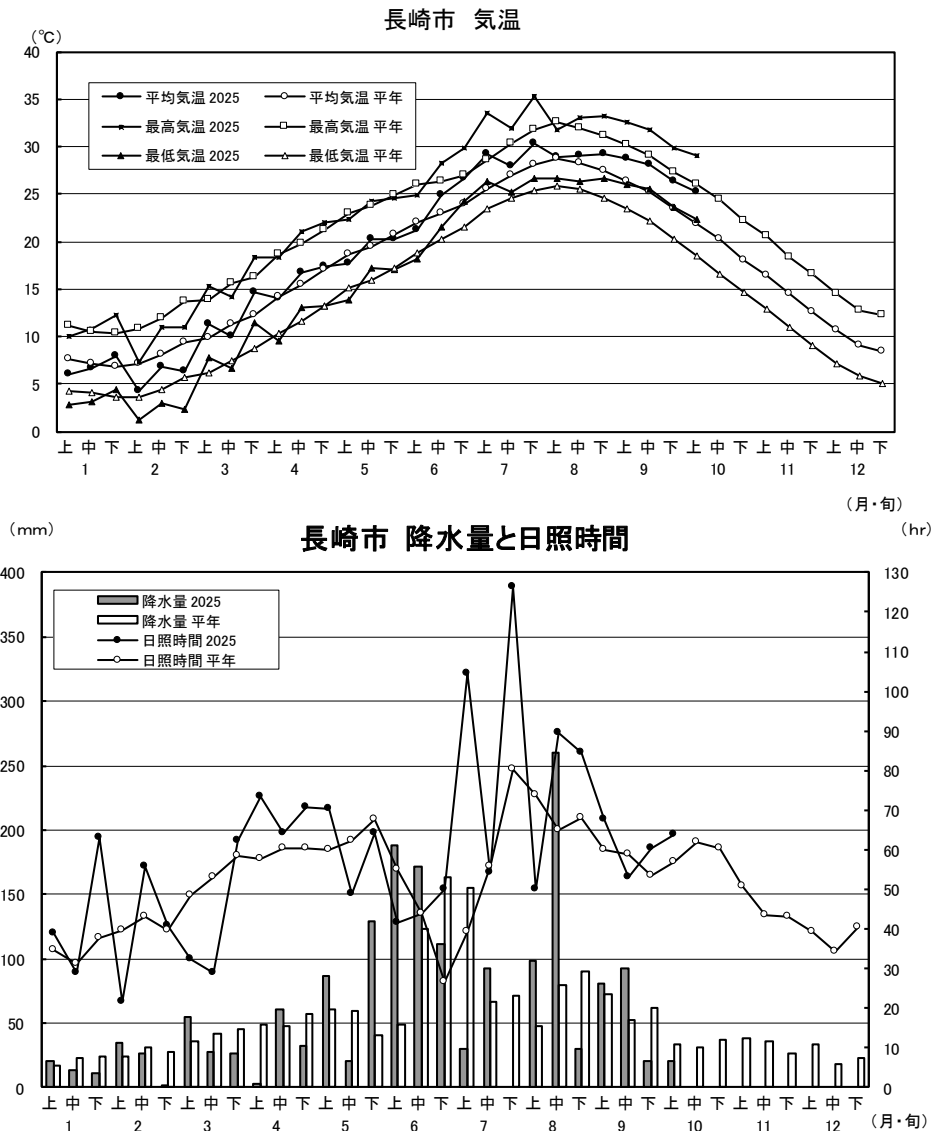
【参考】

(令和7年10月9日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和7年の気象経過(長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

